

グループ別ビジョン提案ワークショップ実施の趣旨と概要 およびそれを踏まえた提案

■開催の趣旨

- 北海道SDGs推進ビジョン（仮称）においては、最初に示された骨子案の段階から、「ビジョンの基本的な考え方」として、「多様なステークホルダー（注：原案では主体）が連携・協働した取組が積極的に推進される」ための「多様なステークホルダー（主体）が互いに共有する基本的な指針」として位置付けられており、その考え方はあらゆる人びとを対象としているSDGsや、その背景にある「持続可能な開発」をめぐる議論のプロセスに沿ったものであり、歓迎すべきものである。
- しかし、道のビジョン策定のプロセスにおいては、一般的な道民対象のパブリックコメントや市町村・関係団体等への個別の意見聴取は想定されていたものの、国連におけるSDGsの策定プロセスを含む「持続可能な開発」をめぐる議論において想定されているステークホルダー（その中心が9つのメジャーグループである）の参画が想定されていなかった。
- 「持続可能な開発」という概念を一般に広める契機となった1992年のリオ地球サミットは、社会のあらゆるグループを意思決定の審議機構に取り込むことを試み、その成果文書であるアジェンダ21では、9つのメジャーグループの役割の強化に第三部のすべて（10章分）を割いている。以降、SDGsの策定やフォローアップに至るまで、これらのグループの参画は「持続可能な開発」をめぐる意思決定の前提となっている。
- こうした多様なグループの意見反映のプロセスを北海道の地域ビジョンの策定に取り入れるには骨子案の提示から策定まで約半年間のスケジュールでは無理があるという意見が懇談会の複数のメンバーから出されたものの、スケジュールの変更は困難ということから、限られた準備期間ではあったが、懇談会メンバー有志のイニシアティブ、北海道の協力という形で、2030年の北海道のあるべき姿（ビジョン）を提案するグループ別ワークショップをできる範囲で行うことにした。

■実施の概要

9月下旬から10月上旬にかけて、4つのグループと1つのテーマで合計5つの2030年の北海道のあるべき姿（ビジョン）を考えるワークショップを開催した。

1. 2030年のほっかいどうを考える Women's Meeting
日時 2018年9月27日 ①10:00～12:00 ②19:00～21:00
会場 札幌エルプラザ 会議室1・2
2. 2030年の北海道を考える the Ainu people's Meeting
日時 2018年9月27日 19:00～20:30
会場 札幌市中央区民センター つどいB
3. 2030年の北海道のあるべき姿を考えるCSO（市民社会組織）ミーティング
日時 2018年10月6日 13:30～16:30
会場 札幌エルプラザ 環境研修室
4. 2030年のほっかいどうを考える Youth's Meeting
日時 2018年10月10日 18:30～20:30
会場 札幌エルプラザ 会議室3・4
5. 持続可能な経済の創造へ～2030年のほっかいどうを考える Economy Meeting～
日時 2018年10月11日（木）18:00～20:30
会場 札幌駅 TKP カンファレンスセンター 2A

■ワークショップの実施を踏まえた提案

1. ビジョン原案の「1. ビジョンの基本的な考え方」の中に、「ビジョン策定までのプロセス」という項目を設け、懇談会の開催やパブリックコメントの実施などとともに、懇談会の取組みとしてグループ別のビジョン提案ワークショップを開催したことを明記してください。
2. ビジョン原案の「3. 北海道のめざす姿と優先課題・対応方向」の（1）めざす姿の記述において、各グループから出された意見を可能な限り反映させてください。なお、十分に反映させることが難しいのであれば、その理由と反映できていない事実を明記してください。
3. ビジョン原案の「4. ビジョンの推進」の（1）各主体の取組において、最低限今回実施したグループ（女性、アイヌ民族、ユース、CSO）の項目を加えてください。
4. ビジョン原案の「4. ビジョンの推進」の（2）推進手法、〈道としての取組〉において、今回ワークショップを実施したグループを含む国連の9つのメジャーグループおよびその他のステークホルダーを参照したグループの参画やそれらのグループとの連携・協働を明記してください。
5. ビジョン原案の「4. ビジョンの推進」の（3）推進管理の記述において、上記の各グループによるフォローアップのための意見交換の場を最低年1回は設けることを明記してください。
6. SDGsでは、「脆弱な（立場に置かれた）人々」の抱える課題を解決することを最優先しており、今回実施した各グループのワークショップにおいてもそうした意見が多数みられます。道の取組みとしてそれらの課題解決に取り組むグループなどと協力して、課題理解のためのSDGsパンフレットを作成してください。

例：「SDGsとジェンダー」「SDGsと子どもたち」「SDGsと外国籍住民」「SDGsと障害者」など
参考：さっぽろ自由学校「遊」発行『SDGs×先住民族』

～SDGs17目標に沿って、日本の先住民族であるアイヌ民族の歴史や現状、課題や提案を紹介した小冊子。

IMADR 発行『ダリットを知る』

～ダリット（南アジアで不可触民とされてきた集団）の置かれている状況を、SDGsの5つの領域（貧困、水と衛生、教育、女性、雇用・労働）から紹介した小冊子。

【参考】2030アジェンダにおける多様なステークホルダーの関与についての記述（抜粋）

■前文より

すべての国及びすべてのステークホルダーは、協同的なパートナーシップの下、この計画を実行する。

パートナーシップ

我々は、強化された地球規模の連帯の精神に基づき、最も貧しく最も脆弱な人々の必要に特別の焦点をあて、全ての国、全てのステークホルダー及び全ての人の参加を得て、再活性化された「持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップ」を通じてこのアジェンダを実施するに必要とされる手段を動員することを決意する。

■宣言より

6.（これまでの経緯）最も貧しく最も脆弱なところからの声に特別な注意を払いながら市民社会及びその他のステークホルダーとの間で行われた2年以上にわたる公開のコンサルテーション及び関与の結果、この目標とターゲットができた。

■我々の世界を変える行動の呼びかけより

52.（人々を中心に据えたアジェンダ）「われら人民は」というのは国連憲章の冒頭の言葉である。今日2030年への道を歩き出すのはこの「われら人民」である。我々の旅路は、政府、国会、国連システム、国際機関、地方政府、先住民、市民社会、ビジネス・民間セクター、科学者・学会、そしてすべての人々を取り込んでいくものである。数百万の人々がすでにこのアジェンダに関与し、我が物としている。これは、人々の、人々による、人々のためのアジェンダであり、そのことこそが、このアジェンダを成功に導くと信じる。

■フォローアップとレビューより

74.（基本原則）すべてのレベルにおけるフォローアップとレビュー（FUR）のプロセスは、次の原則によって導かれる。

- d. これらは、すべての人々にとって開かれて、包摂的で、参加型の、透明性を持ち、すべてのステークホルダーによる報告をサポートする。
- e. これらは、人間中心で、ジェンダーに配慮し、人権を尊重し、特に、貧困で脆弱な最も取り残された人々に焦点を当てたものとする。

79.（国内での実施）また我々は、加盟国が、国及び地域レベルにおいて、各々の国のイニシアティブで行われる定期的で包摂的な進捗に関するレビューを行うことを促す。かかるレビューは、各国の現状や政策、優先課題を踏まえつつ、先住民、市民社会、民間セクター及び他のステークホルダーからの貢献を得つつ行われるべきである。また、国会やその他の機関もこうしたプロセスを支援する。

84.（ステークホルダーの関与）経済社会理事会主催による「ハイレベル政治フォーラム」では、国連総会決議67/290を踏まえて定期的なレビューを実施する。同フォーラムでのレビューは、先進国、開発途上国の他、関連する国連機関、市民社会・民間セクターなどのステークホルダーに対し報告を促しているが、あくまで自発的な性格のものである。レビューは、閣僚やその他のハイレベル参加者が関与した国家主導のプロセスである。レビューは、メジャー・グループ及び関連したステークホルダーの参加を通して、パートナーシップのためのプラットフォームを提供する。

89.（メジャー・グループ）「ハイレベル政治フォーラム」は、国連総会決議67/290に沿って、メジャー・グループ及び関連したステークホルダーによるフォローアップ・レビューのプロセスへの参加を支持する。我々は、これらの関係者に対し、アジェンダの実施に対する彼らの貢献について報告することを呼びかける。

2030年の北海道を考える the Ainu people's Meeting

日 時 2018年9月27日 19:00~20:30

会 場 札幌市中央区民センター・つどいB

参加者 札幌アイヌ協会メンバー 12名

<出された意見>

■なくしていきたいこと・もの

- ・人間中心の考え方をやめる

～アイヌ民族の世界観：カムイ（＝自然）とアイヌ（＝人間）の関係性を意識して、自然の生み出す利子分だけをいただき、元本には手を付けないという教え。モノを取りつくさない、食べ物にも感謝の心を持ってすべてを無駄にしないなど、持続可能な自然との向き合い方

- ・虐待をなくす。今は地域社会のつながりが希薄。

- ・環境汚染。かつてはきれいだった川が、いつの間にか汚れている。

～自然環境は自分たちのものではない、未来の世代から借りていると意識すること。

- ・貧困と差別。

■変わらずにあってほしいこと・もの

- ・心の思いやり。家族、家庭内での文化伝承、コミュニケーション。

～文化伝承の最小単位は家庭。地域のつながりを大切に

- ・豊かな自然環境

■増やしていきたいこと・もの

- ・アイヌの考え方や知恵をすべての人に。

- ・貧困の是正。アイヌだけではなく、すべての人に。

～先住民族の知恵、文化をきっかけに北海道の社会問題解決の糸口が見つかる！

～自然との向き合い方、自然を大切にする思い。「天から役目なしにおろされたものは一つもない」

～子どもや老人を大切にする（全員が通る道だから）。

- ・時間的な余裕をもつ。少しの不便さは許容する。

- ・子育てをサポートする政策の充実。

- ・若者に対する支援

～集うことで民族の「誇り」が形成される。話し合う場が必要

～しかし、金銭的な負担があると継続しないので、サポートが必要。

- ・「先住民族」という概念の正しい理解の促進、啓発が必要

※研究者ですら、「私も〇〇の先住民族」というようなことを言う人がいる。

- ・教育の充実

～先住民族とはなにか、先住民族がいる社会について道民全員が知見を深める。郷土教育としてのアイヌ民族教育確立の必要性。加えて、アイヌ民族の子どもたちの進学率向上。

～学校およびすべてのセクター（公務員・司法関係者含む）で、北海道独自の歴史を正しく教える。

～アイヌ語教育。アイヌ民族のための教育。

～アイヌの進学率の向上。都心・地方で格差が生じないよう配慮が必要。

- ・経済的自立

～土地や資源の権利。海、山の利用権。明治以降、土地を奪われていった「償い」が必要。

～国後島、択捉島などを先住していたアイヌ民族の土地に。ロシアは日本ではなくアイヌになら返す用意があるとっている。

～観光業などで経済的に自立する方法もある。

2030年の北海道のあるべき姿（CSOミーティングより）

2030年の北海道のあるべき姿を考えるCSO（市民社会組織）ミーティング

日時：2018年10月6日（土） 13:30～16:30

会場：札幌エルプラザ 環境研修室

分類	北海道のあるべき姿（ビジョン）	減らしたいこと・もの	残したいこと・もの	増やしたいこと・もの
総合	自治と共生、自然と共に北海道			
人権・包摂・平和	すべての人に優しい北海道	差別 偏見 社会的分断 社会的差別 社会的孤立 バッシング ヘイトスピーチ 外国人、移民、在日への差別 パワーハラスメント セクシャルハラスメント 性暴力(×2) ドメスティックバイオレンス 男性議員、男性管理職 自衛隊、米軍基地 など すべての戦争	9条	近い外国の人ひととの交流（サハリン、韓国朝鮮、中国など） 在日を認める社会 在日外国人の権利～地方参政権 多様なキャリア、学歴 マイノリティグループの議員（女性、障がい者、LGBTなど） 居場所 女性の社長 女性の首相 女性の所得 多様性を認め合えるシステムと人 学校いけない子の学校、フリースクール
	人権を大切にす北海道			
	脆弱な人々を第一に考える北海道			
	最も脆弱な人々のニーズが満たされる、公正・寛容で社会的に包摂された北海道			
	子ども、障がい者、外国籍…と様々な立場を認め合う北海道			
	職業に対する偏見がない北海道			
	生きて存在してるだけで価値のある北海道			
	先住民アイヌの人権をとりもとして、差別なく理解しあえる北海道			
	広々とした大地のように豊かな心をもって、差別のない北海道			
	誰にも支配されたり、暴力を振るわれたりしない北海道			
社会が女性性に基づく調和と愛に根差した北海道				
誰もが居場所と役割のある北海道				
暮らしのち・循環	健康で自立する北海道	貧困(×2) 買物難民 金融資本主義 経済 銀行(既存の) 児童労働により生産されるあらゆる商品 大きな格差 ブラック企業 遺伝子組替食品、添加物など。 添加物だらけの食品 種子法廃止 子どもの健康を損なうフクチン・フッ素など行政の強制 原子力発電(×5) 火力発電 風力発電 太陽パネル・メガソーラー・風力発電 良いと思われてどんどん増えている再生可能エネルギー(風力、太陽光、バイオマス等) 自然破壊や健康被害をもたらすのでなくしたい 携帯基地局減ってほしい 温暖化ガス メガ農地 外来種 自然の汚染 環境破壊 プラスチック製品 プラスチックゴミ ゴミ カラス	原野、森、自然 北海道の豊かな自然 北海道の素晴らしい自然、動植物 北海道のおいしい食べもの IT・AIの真に貢献できる技術進化	グリーンコンシューマー 自然食品の店 安心・安全な食べもの 寿命 健康寿命 支え合い 小規模分散エネルギー農業 循環型のリサイクルプラント(古着、プラスチック、生ゴミ原料) 自然多様な生き物がある豊かな自然 路線(公共交通) 具体的にはわからないが交通 自動運転 ギフト経済、物々交換経済 クラウドファンドの金融システム 寄付文化 中小企業を応援するしくみ(創業だけでなく) 小さい仕事、商売 経済の地域循環システム 個人が使えるテクノロジー、メディア 地域の新ブランド化 開発力(商品) 産官学金+NPO法人=新規 ESG投資
	長寿命(100歳)人生の北海道			
	安心・安全な食料が手に入る北海道(実は農業が多い)			
	ゴミが地上資源になり、安価で信頼できる持続可能なエネルギーで循環する北海道			
	持続可能なエネルギーを誰もが利用できる北海道			
	エネルギーをつくりすぎない北海道			
	生物多様性の豊かさに誇りが持てる北海道			
	道民一人ひとりが自然の一部であると自覚して暮らし北海道			
	自然を大事にして維持し、さらに豊かにしていく北海道			
	豊かで多様な生き物・人々が刺激的に調和する北海道			
経済と環境が両立している北海道				
産官学金の長期安定稼働の北海道				
事業振興の北海道				
自治・文化	自由に選べる北海道	村度 国からの補助 頭脳流出 不法(国際法との差異) 婚姻制度 既存の教育システム 公共事業(ダム、CCS、カジノ) 道議会議場の建設 大きな政府 大きな行政システム ピラミッド型組織 お金のかかりすぎの選挙 夢のない大人	道徳心のある大人	独立、自治 新規取組(市民要望) 市町村のSDGsを北海道波及女性的リーダーシップ(政治家、管理職、経営者) 対話のあふれたあらゆる組織 ティール組織 自治力 政治に関心を持つ人 生活につかれていない人 社会参加する若い人 わくわく、楽しく生きている大人 志、夢、希望のある大人 利他心のある大人 社会参加の機会 力を発揮できる場とかしくみ 若者が活躍できる環境 遠くの人と会える仕組み 文化を育てようという心 歴史教育 自由な学校 教育で試験・評価のないシステム 20人に1人の教員
	公平に参加の機会がある北海道			
	独自の歴史を誇れる北海道			
	豊かな心と自然でアートがどんどん生まれる北海道			
	教育が魅力的で誰でも留学したい北海道			
	格差のない教育を子どもに支援する北海道			
すべての子どもたちが十分、それぞれの能力を發揮してのびのび成長できる北海道				

*付記(欠席者からの意見提出)

①減ってほしいこと・もの～自然災害 国内貧困格差 児童虐待 孤独死 原子力発電所・火力発電所 自家用車 化学肥料を使用する農業

②残したいこと・もの～手つかずの自然も残してほしいが、農村の里山の自然環境を残したい。そのためには産業として農業が成り立つ構造の確立が必要

③増えてほしいこと・もの～完全バリアフリー化 非核宣言・平和宣言する自治体 難民を受け入れる「第三国定住」制度を宣言する自治体 フェアトレードタウンとして宣言するコミュニティ 発電力の大半が自然再生エネルギーとなること すべての食料が有機農業で地産地消されること 持続可能な農業・漁業生産を中心に、食品加工業、流通業、外食産業、観光業などの産業連携が盛んになること 健康者と障がい者が統合教育として学べる機会 先住アイヌ文化との共存する場 移民も含め多様な文化が共存するコミュニティ